

当院での M2（中大脳動脈末梢部）閉塞への

血栓回収に関する後ろ向き研究

- 研究の目的、方法と意義について

脳の太い血管に血のかたまり（血栓）がつまってしまった患者さんに対して、症状が出てから 8 時間以内など超急性期に、カテーテルという細い管を使って血栓を取り除く治療（血栓回収療法）が一般に行われており、当院でも積極的に実施しています。

当院では、中大脳動脈の末梢部（比較的細い血管）に対してステントリトリーバーと吸引カテーテルの複合使用（どちらも血栓を除去する道具）を第一選択としてきました。

これまでのところ、この方法は最も成績が良いとされていますが、細い血管への治療ではどうしても軽度の出血が見られる場合があることが知られています。

今回の研究では当院でのこれまでの治療成績を検討し、どのような場合に良好な結果が得られるのか、どのような場合に出血が見られることが多いのか、などを検討し、より良い治療を目指すことを目的としています。

- 対象

当院で中大脳動脈末梢部の閉塞に対して血栓回収術を受けた患者さんが対象となります。

- 項目

年齢、性別、原疾患、採血データ、画像データ、治療方法、合併症の有無、治療成績、予後などのデータをカルテから抽出します。

- 拒否機会の保障と連絡方法

この研究の結果は個人の特定ができない形でデータ解析が行われますが、カルテデータの研究参加を拒否することが可能です。

該当期間に手術を受けた患者さんで、ご自身の記録を研究に利用されることを望まれない方は、下記連絡先まで、メールまたはFAXにてご連絡ください。

この研究への情報提供を停止させていただきます。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。

不明な点やご心配などがございましたら、ご遠慮なく書き連絡先までメールまたはFAXにてご連絡ください。

この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく不利益を被ることはありません。

- お問い合わせ等の連絡先

清恵会病院 脳卒中センター 部長 木村僚太

メールアドレス：r-kimura@seikeikai.or.jp

FAX：0120-34-8199